



2023年2月13日

各位

会社名 株式会社S Y Sホールディングス
代表者名 代表取締役 鈴木裕紀
会長兼社長
(コード番号：3988 東証スタンダード)
問合せ先 取締役専務執行役員 後藤大祐
管理本部長
(TEL 052-937-0209)

2023年7月期第2四半期連結業績予想及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2022年9月13日に公表いたしました2023年7月期第2四半期累計の連結業績予想及び2023年7月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正について

(1) 2023年7月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正 (2022年8月1日～2023年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 4,029	百万円 207	百万円 208	百万円 133	円 銭 25.73
今回修正予想(B)	4,763	207	217	106	20.53
増減額(B-A)	734	—	9	△ 27	
増減率(%)	18.2	—	4.8	△ 20.3	
(ご参考)前期連結実績 (2022年7月期第2四半期)	3,601	206	217	134	26.02

(2) 2023年7月期通期連結業績予想数値の修正 (2022年8月1日～2023年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 8,500	百万円 510	百万円 510	百万円 330	円 銭 63.54
今回修正予想(B)	10,441	510	515	300	57.76
増減額(B-A)	1,941	—	5	△ 29	
増減率(%)	22.8	—	1.1	△ 9.0	
(ご参考)前期連結実績 (2022年7月期)	7,576	435	457	305	59.15

(3) 修正の理由

当社グループでは、前回公表の業績見通しとの乖離が下記の理由により見込まれることになったため、2023年7月期第2四半期(累計)の連結業績予想及び2023年7月期通期の連結業績予想について修正を行います。

2023年7月期第2四半期累計の売上高は、2022年11月1日にM&Aにより連結子会社が5社増加したことにより新規連結子会社の3か月分の売上高が増加したことや、社会情報インフラ関連顧客からの受注が増加したこと等により、売上高が前回予想を上回る見込みです。

利益面では、売上高の増加や一部の高収益プロジェクトにより営業利益が増加したものの、M&A取得関連費用72,150千円の計上や、のれん償却費の計上、M&Aに伴う管理コストの増加等により営業利益の減少が見込まれていることから、営業利益を前回予想から据え置いております。また、営業外収益として、助成金収入等を計上したこと等により経常利益が前回予想を上回る見込みです。M&A取得関連費用、のれん償却費等は税効果がなく、増加した費用がそのまま親会社株主に帰属する四半期純利益に反映されることから、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回予想を下回る見込みです。

2023年7月期の通期の売上高は、2022年11月1日にM&Aにより連結子会社が5社増加したことにより新規連結子会社の9か月分の売上高が増加することや、社会情報インフラ関連顧客からの受注が増加する見込みであること等により、売上高が前回予想を上回る見込みです。

利益面では、売上高の増加や2023年7月期第2四半期（累計）に計上した一部の高収益プロジェクトにより営業利益の増加が見込まれているものの、M&A取得関連費用80,000千円の計上やのれん償却費の計上、M&Aに伴う管理コストの増加等を見込んでいることから、営業利益を前回予想から据え置いております。また、営業外費用として資金の調達に伴う支払手数料の増加を見込んでいるものの、営業外収益として、助成金収入を計上したこと等により経常利益が前回予想を上回る見込みです。M&A取得関連費用、のれん償却費等は、税効果がなく増加した費用がそのまま親会社株主に帰属する当期純利益に反映されることから、親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想を下回る見込みです。

（注）業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上